

令和 8 年 4 月 16 日

徳島医療福祉専門学校
校長 末善 守 殿

徳島医療福祉専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 市川 公雄

学校関係者評価委員会報告

令和 7 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 市川 公雄 (学園評議員)
- ② 松村 茂 (教育等関係者)
- ③ 宮川 智 (令和 7 年度理学療法学科保護者役員)
- ④ 長尾 由香 (令和 7 年度作業療法学科保護者役員)
- ⑤ 岩朝 利雄 (三溪同窓会役員)
- ⑥ 若松 正人 (理学療法分野業界団体関係者)
- ⑦ 細川 友和 (作業療法分野業界団体関係者)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 令和 7 年 6 月 2 日 (会場 徳島医療福祉専門学校 別館会議室)
- 第 2 回委員会 令和 8 年 3 月 25 日 (会場 徳島医療福祉専門学校 別館会議室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり。

以上

【別紙】

I. 令和7年度重点目標について

1. 建学の理念ならびに教育目標を達成するため、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、アセスメントポリシーに沿った教育活動を展開し、より一層の高みを目指した学校運営を行う。」について
<ul style="list-style-type: none">・教育の質と成果：4つのポリシーに沿った教育活動が展開されており、国家試験合格などの成果は、シラバスや教員の指導力、日々の授業の賜物である。・学生への浸透：「より一層の高み」を目指す姿勢が、教育活動を通じて教職員から学生へ伝わっていると感じられる。・個別指導の重要性：学生の資質・能力が多様化する中で、個性に寄り添ったきめ細やかな指導がさらに望まれる。
2. 「第2期中期目標（令和4年度から令和9年度まで）の達成に向け、より実効的な対策を講じる。」について
<ul style="list-style-type: none">・学生確保の課題：受験者数・入学者数の減少克服が最重要課題である。在校生による「紹介システム」や入試方法の改善、広報活動の充実に期待が寄せられている。・多様な進路提示：専門学校での学びを活かした大学編入などの選択肢を広く伝えることも有効ではないか。・学業達成率：学業達成率の向上は大きな課題であり、継続的な取り組みが必要である。
3. 「学校の将来を見据え、教職員のキャリアアップを推奨し、指導力、事務処理能力の向上を図る。」について
<ul style="list-style-type: none">・支援体制の構築：認定・専門療法士や学位取得の支援、研修時間の確保など、教職員のスキルアップを支える体制づくりが期待されている。・意欲の波及：教職員が自ら学ぼうとする姿勢やキャリアアップへの意欲は、学校の成長や学生の学力向上に直結する。
4. 多様化する学生の校内、校外における生活指導を徹底するとともに、周囲の人に共感できる温かい人間性をもった医療人の育成を図る。
<ul style="list-style-type: none">・マナー指導：立哨指導や交通講話などを通じた交通マナー、寮生活などの生活指導の継続が求められる。・地域からの視点：学生は「学校の広告塔」であり、町民から常に見られているという意識を持つことが重要である。・人間性の育成：笑顔で挨拶ができるような、人の心を動かせる温かい人間性を持った医療人の育成を強化してほしい。

II. 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像について
<ul style="list-style-type: none">・ニーズに合わせた人材育成を行い、患者から「担当してもらってよかった」と言われる療法士の育成を目指してほしい。・31年間の伝統を継承しつつ、多様化する学生に柔軟に適応した教育を期待する。

<h2>2 学校運営について</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ・理事会や評議委員会を通じた民主的かつ効率的な運営がなされている。 ・「学園の将来構想委員会」での議論が今後のより良い方向性や学校運営に反映されることを期待する。 ・県外募集の成果を認めつつ、今後は県内募集への対応も必要と思われる。
<h2>3 教育活動について</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験の高い合格率を維持するため、専任教員による個別指導や学業不振者への細やかな指導を継続してほしい。 ・休退学者の問題に対し、情報共有と指導体制の強化に加え、個々の適正に応じた新たな進路を見つけさせる視点も重要である。 ・SNSでの話題作りのため、学生を運営に参加させアイデアや流行を取り入れてはどうか。
<h2>4 学修成果について</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ツール「モノグサ」の導入を評価し、その効果の検証と、学生全体への定着・有効活用を進めることで学業達成率の向上に繋げてほしい。 ・国家試験合格率、就職率ともに高い水準を維持している点は大きな特色である。
<h2>5 学生支援について</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ・求人情報の周知は適切に行われているが、卒業生からの情報提供などを加えることで、学生の就業意欲をさらに高める工夫が望まれる。 ・メンタル不調者へのカウンセリング体制の充実や、奨学金制度の充実に向けた取り組みを期待する。
<h2>6 教育環境について</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は基準に則り整備されているが、試験勉強に集中できる「自習室」の設置を望む意見がある。 ・スクールバスの帰りの便が少ないため、学生の利便性向上のために複数便の運行を検討してほしい。
<h2>7 学生の募集と受入れについて</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスが志望のきっかけとなっており、参加者増に向けた早急な対策が必要である。 ・将来を見据えた中学生へのアプローチや、社会人をターゲットとした募集、YouTube や SNS を活用した生活の様子の発信が提案されている。 ・令和9年度からの総合型選抜（AO 入試）導入は建設的な取り組みとして期待されている。一方、入学試験の間口を広げ、面接での加点を考慮してはどうかという意見もある。
<h2>8 財務について</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学科の定員割れ解消が課題であり、限られた予算内での効果的な広報活動が求められる。 ・地域への貢献実績等を踏まえ、施設老朽化対策などのための自治体予算増額を要望してはどうかという意見がある。

9 法令等の遵守について

- ・関連法令や改正に適切に対応しており、ハラスメント委員会の設置も今日的な意義がある。
- ・引き続き法令遵守を徹底し、人権を尊重する学校環境を維持してほしい。

10 社会貢献・地域貢献について

- ・教員による専門団体への参画や高校への講師派遣など、積極的な活動を評価する。
- ・地元勝浦町の小・中・高校との交流や、町内のイベントへの参加、高齢者サロン・認知症カフェの支援など、より地域に密着した活動が期待されている。
- ・本学が勝浦町に存在し続けていること自体が、大きな社会・地域貢献である。

III. 特記事項

--